

# がんの不安からお客さまを守る

がんは、生涯のうちにおよそ2人に1人がかかる\*、いわば「国民病」とも言え、患者数は年々増加しています。住友生命は、お客さまが治療費などの経済的な不安なくがん向き合えるよう、新たながん保障特約「がんPLUS」を発売しました。

\*公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計'12」から引用

## 進歩するがん治療に対応できる保険を提供したい

がんの治療方法は大きく分けて、手術・放射線治療・抗がん剤治療の3つがあります。

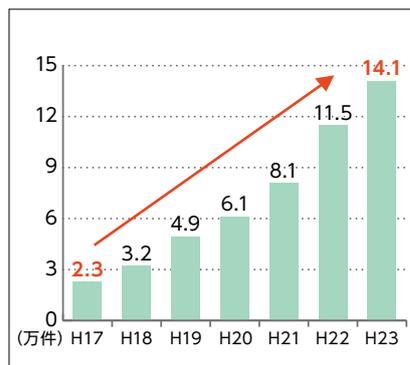
以前は、これらの治療には入院を伴うことが大半でしたが、近年、副作用の少ない抗がん剤の登場や副作用に対する治療の進歩により、外来で治療することも増えてきました。

国が策定したがん対策推進基本計画においても、療養中の生活の質の向上がうたわれており、日常生活を送りながら治療できるよう、外来治療の体制づくりや、痛みを抑える緩和ケアの充実などが進められています。

その一方で、新しい抗がん剤が高額であったり、治療期間が長期におよぶことによって、治療を受ける方の経済的な負担が増えることが考えられます。

従来のがん治療は入院を伴うものが多かったことから、一般的ながん保険は入院に対しての保障が中心となっていました。しかし、医療技術が進歩し、外来での治療が増えてきた今、お客さまに本当に安心して治療を受けていただくためには、入院の有無に関わらず、より幅広く「がんの治療」にスポットを当てた保障が必要なのではないかと考え、この「がんPLUS」が誕生しました。

## ■外来での抗がん剤治療の実施件数推移



\*厚生労働省「社会医療診療行為別調査」より  
外来化学療法加算の件数を集計

## がん治療を切れ目なくサポートする2つの特約

「がんPLUS」とこれまでの当社がん関連商品を組み合わせることで「早期がんから進行がんまでさまざまな治療を切れ目なくカバー」する充実した保障をご提供します。

### 将来誕生する新薬による抗がん剤治療もカバーする「がん薬物治療特約」

抗がん剤治療を受ける方の割合は、がん患者全体の約4割に上り、がん治療において抗がん剤治療は欠かせません。しかし、副作用が少なく効果の高い抗がん剤が次々と開発される一方で、これまでの当社の保険では、抗がん剤治療が保障されず、高額な薬剤費が治療を受ける方の大きな負担となっていました。

「がん薬物治療特約」は、医師による公的医療保険制度の給付対象となるがんの薬物治療を受けた時に給付金が支払われる特約です。この特約では、お支払い対象となる抗がん剤に関し、医薬品名を列挙したり医薬品の分類に準拠する方式ではなく、公的医療保険制度の給付対象となる医薬品について、「医師ががんの治療を目的に使用する医薬品を、将来誕生する新薬も含めてもれなくカバー」できる業界初(※)の

仕組みを導入しています。これによって、がん罹患されたお客さまも公的医療保険制度の給付対象となる抗がん剤治療に使われる医薬品が保障の対象となるか心配することなく、安心して治療を進めることができるようになります。

また、がん罹患された方の生活の質を重視する観点から、従来がんに対する積極的な治療の終了後に行われていた、がんの痛みを和らげる治療(疼痛緩和ケア)が、がんに対する治療と並行して行われるようになってきています。そういった緩和ケ

[住友生命のがん保障の全体像イメージ]

「がんPLUS」とこれまでの当社がん関連商品を組み合わせることで、「早期がんから進行がんまでさまざまな治療を切れ目なくカバー」する充実した保障をご提供します。



※平成25年3月当社調べ



アの普及を踏まえ、この特約では疼痛緩和ケアを目的とする医薬品も保障の対象としています。

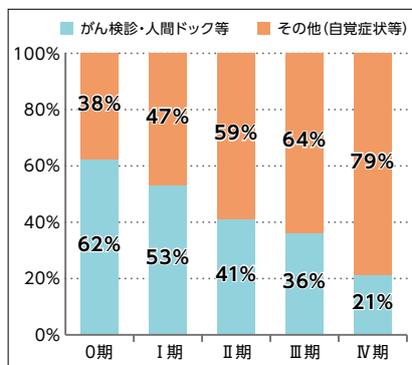
**早期発見・早期治療にも対応する「がん診断特約」**

「がん診断特約」は、生まれて初めてがんになったと診断確定された時に保険金が支払われる特約です。

がんは、早期発見・早期治療で治癒する可能性が高まりますが、早期では自覚症状がないことが多く、早期がんはがん検診や人間ドック等で発見されることが多くなっています。しかし、日本におけるがん検診の受診率は20～30%程度であり、国のがん対策推進基本計画では受診率50%を目標に、市町村や職場での受診を推進しています。今後、がん検診の受診

率上昇に伴って、上皮内新生物と呼ばれる早期のがんが発見されるケースが増えることが予想されるため、「がん診断特約」では、上皮内新生物も対象としています。

■ステージ別がんの発見経緯



\*住友生命「2012年がん患者およびその家族へのアンケート調査」より  
\*生存者を対象

**スミセイの  
がんPLUS  
プラス**

- **がん薬物治療特約**
  - ・抗がん剤治療および疼痛緩和ケアを保障
  - ・将来誕生する新薬にも対応
- **がん診断特約**
  - ・上皮内新生物も保障
  - ・がんの早期発見に対応

**がんを正しく知り、備えていただくために**

がんが発見された方は、体の不調だけでなく、精神的な不安を抱えています。さらに、情報不足や、地域に十分な医療体制がないなど、安心して納得できるがん治療を受けられないといった困難に直面することがあります。住友生命では、お客さまにより良い治療を受けていただけるよう、「スミセイ・セカンドオピニオン・サービス」(\*)を提供しています。これは、病気の治療にあたり、主治医以外

から意見を聞くために、日本を代表する各分野の名医(総合相談医)を紹介・手配するサービスです(提供:T-PEC)。お客さまが最適な医療を納得して選択し、安心して治療を受けていただけるようサポートしています。

また、がんの早期発見・早期治療を行い、長く健康に過ごしていただくためには、元気な時にこそがんのことを知って、しっかりとした備えをすることが大切だと考えています。

住友生命は、独立行政法人国立がん研究センター等と協力し、がんについての正しい知識を深めていただくためのさまざまな活動を進めています。

がんについて正しく理解していれば、がんと診断された時にも向き合うことができるはずです。住友生命は、今後もお客さまに役に立つ商品・サービスの提供を通じて、安心と満足を提供していきたいと考えています。

※サービス適用対象:がん診断特約およびがん薬物治療特約をいずれも付加したWステージまたはライブワンのご加入者さま

**商品開発担当者の声**



商品開発室 細川慎介

「がんPLUS」の開発にあたっては、実際に多くのがん患者さんにお会いし、患者さんにとって本当に役に立てる商品とは何かを徹底的に考えました。そこで「将来誕生する新薬も含めてカバー」「緩和ケアの普及にも対応」「早期発見を推進」することのできる保険を開発するという目標が明確になり

ました。ただ、参考となる文献やデータ等に限りがあるため、現場の医師の意見をできるだけ多く聞き、「実際にがんに罹ったとき、こんな商品があったら助かる」と思っていただけの商品となるよう細心の注意を払いました。

商品開発担当者にとって一番の願いであり喜びは、一人でも多くの方のお役に立つことに尽きますし、それを実感できたとき、この仕事をやってい

て本当に良かったと感じます。この商品を通じて日本中のがん患者の方々とそのご家族を少しでもお支えることができると願っています。

今後は高齢化が進み、ますます医療分野の保険のニーズは高まってくると思います。国が推進するがん対策を見据えながら、お客さまに安心した暮らしをご提供できるよう商品の開発に取り組んでいきたいと思っています。

# がんを知り、がんにも備える社会づくりに向けて

住友生命はブランドビジョンに掲げる「あなたの未来を強くする」という企業メッセージのもと、国民の死亡原因の第一位であるがんの罹患率や死亡率の低減に向けて啓発活動やがん患者支援活動を進めています。今後、取組みを進めていくうえで、どのような連携や活動が期待されているのか、がん対策の専門家にお話を伺いました。

## がん検診の受診率を高めるために、がんのことを知っていただく

**若尾氏:** 私は国立がん研究センターで、がんに関する情報を広く一般の皆さんにお伝えする仕事に携わっています。がんは2人に1人がかかる病気と言われているにも関わらず、まだまだ十分な情報が伝わっていません。そのため、がん検診の受診率も25%程度と非常に低いのが現状です。がん対策基本法に基づき国が策定したがん対策推進基本計画では、がん検診の受診率を50%にまで高めることを目標にしています。

**小西氏:** そうですね。そういった受診率の低さも日本でがん対策が進んでいないと言われる理由のひとつだと思います。私の所属する日本対がん協会では、がん検診の受診率を上げるために全国の支部と連携して「ピンクリボン運動」のイベントや若い世代へのがん教育を行っています。

**濱本:** ピンクリボン運動は当社でも平成19年から取り組んでおり、最近こうした取組みが広がってきて嬉しく思っています。

**若尾氏:** そういった啓発活動等が大切で、子どものうちから、がんの予防教育や健康教育をしておくことも大きなポイントです。がんの原因は、たばこや飲酒、食生活など生活習慣に関わるものが大きいからです。

**濱本:** がん検診を受けないのは、「がんだとわかるのが怖いから」という方も多いのでしょうか。健康な人は、がんに関する知識や、がんになったらどうすれば良いかをあまり知らず、漠然とした不安を感じ、余計に避けてしまうのではないかと思います。

**若尾氏:** がんというと不治の病というイメージを多くの方が持っていらっしゃると思うんですね。でも、現在、5年生存率は6割を超えていますので、不治の病ではないということをまず知っていただくことです。そういった意味で、今回、住友生命さんががんの啓発冊子

「知っておきたいがんのこと」を50万部も作成されて、全国の営業職員の方を通して啓発活動を進めていることを心強く感じます。

**内海:** 生命保険は一般的には健康な方におすすめするものですから、加入される時には将来病気になるリスクを想像するのが難しいことが多いのですが、がんについてはお客さまの関心が非常に高いと感じます。しかし一方で、インターネットや本であらゆる情報が氾濫していて、一体何が正しいのか判断できないという悩みも多いようです。そこで、国立がん研究センターさまに監修いただいて、正しい情報を自信を持ってお客さまにお伝えできる冊子を作成しました。



がんになっても、安心して前向きに生きるためのサポートを



若尾 文彦氏

独立行政法人 国立がん研究センター  
がん対策情報センター センター長  
がん情報提供研究部長



小西 宏氏

公益財団法人 日本対がん協会  
マネジャー 広報担当



内海 信

商品開発室長



濱本 信樹

CSR推進室長



**若尾氏:** がんの告知を受けると、当然のことですが、ショックで落ち込んでしまい、その後どうしたら良いのかわからなくなってしまいます。そのような場合に相談できる場所をということで、全国に397カ所ある、がん診療連携拠点病院に「相談支援センター」を設けています。看護師やソーシャルワーカーが相談を受けており、誰でも利用することができるので、ぜひ活用していただきたいですね。

**小西氏:** 日本対がん協会でも、電話で相談できるホットラインを設けていて、年間1万件ほどの相談を受けています。

**若尾氏:** 相談支援センターへの相談内容で多いのが、医療費や生活費についてです。新しい抗がん剤が開発されて治療のレベルは確実に上がっていますが、薬剤費が高いのが課題です。高い薬をずっと使い続けなければならず、患者さんの経済的な負担が非常に大きくなっており、不安の原因のひとつとなっています。

**小西氏:** 早期に発見して治療すれば、今は日帰り治療もできますし、治療費も安く済みます。ところが、進行して大きな手術が必要になると、治療費だけでも100万円を超える事もあります。

**濱本:** 治療の面だけでなく、経済的な面からも早期発見が大切で、そのためにがん検診を受けたほうが良いということですね。また、がんが発見された時に動揺しないためにも、がんにかかってからの様々な情報を正しく知っておくことが必要ですね。

**若尾氏:** 20年前はがんの告知すらしな

い時代でしたし、今でもがんに罹患したことを周囲にあまり言わないことも多いようですが、これからは、もっとフランクに、オープンに言えるような環境になっていけばいいなと考えています。周囲に伝えることが自然にでき、皆で支え合っていくような社会づくりが必要ですね。

**小西氏:** そうですね。日本対がん協会では、患者さん支援のために「リレー・フォー・ライフ」というイベントを開催しています。がん患者さんを含め、さまざまな立場の方が青空のもとに集い、がんに立ち向かう日々の想いを語り、リレー方式で24時間歩いて寄付を募るイベントです。自分の体験を話して、1人じゃないんだ、仲間がいるんだと感じていただく。そして、その仲間同士で支え合っていく。そういう場が地域社会にあることが必要だと思っています。

**濱本:** そうですね。住友生命でも、職員がリレー・フォー・ライフに参加させていただく等、活動を支援しています。

## 「がんに負けない社会をつくる」という共通の目標に向かって

**若尾氏:** 住友生命さんには、生命保険で経済面での保障を提供するというのももちろんですが、正しい情報提供や、リレー・フォー・ライフなどの支え合いの場についても広く伝えていただくことを期待しています。

**小西氏:** 第一線でお客さまと接している営業職員の方は、まさにお客さまの状況やニーズをしっかりと把握されて

いるので、適切な情報を必要な人にきちんと届けていただけるのではないのでしょうか。

**内海:** 生命保険事業をより大きな視点で見ると、「お客さまの不安を解消する手助けをする」ということになります。保険の加入を考える方は、将来のリスクを想像しながら検討しています。そのときにがんの予防や治療法のお話をすれば、興味を持って聞いていただけるので、不安の解消にも繋がると思います。住友生命は全国津々浦々に支社・支部がありますので、人を介して直接お伝えできるという点が強みだと感じています。

**小西氏:** 私たちは、「がんに負けない社会づくり」を目標に掲げていますが、それは単独の組織だけで達成できるものではありません。さまざまな組織が得意分野を活かして、同じ方向を向いて協力することが不可欠なのです。

**若尾氏:** 「六位一体」ですね。患者、医療提供者、行政、議員、民間、メディアのそれぞれが国民の健康を守るという共通の目標に向かって連携していくことが大切です。

**濱本:** お客さまへの保障の提供とともに、正しい情報をお客さまにお伝えすることも住友生命の役割です。お客さまの知りたい情報が何かを国立がん研究センターさまや日本対がん協会さまなどと共有させていただくことで、がん対策の活動に相乗効果を生み出していきたいと思っております。元気な方も、がんに罹患された方も、未来を強く生きられるよう、力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。

# 住友生命の社会貢献活動

住友生命は、人生の不安を解消し、自信と希望をもって、力強く未来に進むための大きな「力」になる生命保険をお届けするとともに、社会の一員としてより良い未来を創っていくため、生命保険に関わりの深い社会的課題の解決に向け、積極的な取組みを行っています。

## 少子化・子育て

すこやかな子育てと夢のある未来づくりに向けて、「子育てのすばらしさ」を啓発し、子育てしやすい環境づくりを支援しています。

- 未来を強くする子育てプロジェクト 等



未来を強くする子育てプロジェクト  
表彰団体の活動

## 芸術・文化

心豊かな社会づくりの礎となる芸術・文化活動として、絵画コンクールやクラシックコンサートを実施しています。

- こども絵画コンクール
- 全国縦断チャリティコンサート 等



こども絵画コンクール  
入賞作品



全国縦断チャリティ  
コンサート



## 地球環境

持続可能な社会づくりのために、環境保護に資するプロジェクトの実施や職員によるボランティア活動に取り組んでいます。

- サンゴ礁保全プロジェクト
- 森林保全活動 等



サンゴ礁保全プロジェクト



森林保全活動

## 地域社会・国際社会

職員参加型ボランティア活動であるスミセイ・ヒューマニー活動や、チャリティイベントへの参画などを行っています。

- スミセイ・ヒューマニー活動
- 24時間テレビ“愛は地球を救う”協賛 等



地域清掃活動



絵本を届ける運動



## 介護・医療

生命保険事業と親和性の高い介護医療分野での活動や、団体支援を進めています。

- 「がん」の啓発・団体支援
- 介護に関する情報サイトの提供・団体支援
- 病院等でのボランティアコンサート 等



介護に関する情報サイト



病院等でのボランティアコンサート

## その他の主な取組み

少子化・子育て：子どもや親等を対象にしたイベントや講演会の開催・協力  
 介護・医療：認知症サポーターの養成、アシスタントドッグ（身体障がい者補助犬・当社の造語）育成支援  
 芸術・文化：いずみホールでの音楽文化振興事業への支援  
 地域社会・国際社会：ユニバーサルデザインカレンダー寄贈、TABLE FOR TWOの取組み  
 地球環境：海岸・河川などでの環境保全活動、花木の補植活動 等